



NPO高知県
日中友好新聞

2019年7月1日

No.58号

発行責任者 浜田嘉彦

NPO 法人高知県日中友好協会

〒780-0870 高知市本町4丁目

1-37 丸ノ内ビル 1F8号

TEL : 088-825-0011 / FAX : 088-825-0513

nichu-kochi@movie.ocn.ne.jp

<http://nichu-kochi.net/>

第4回大連市「日中十都市アカシア巡りウォーキング大会」盛況裏に開催

大連市中日友好協会と
(一社) 四国華僑華人連合会
共催、NPO 高知県日中友好
協会協賛のアカシアウォー
キング大会が5月24日より
26日まで、中国大連市で大
盛況のうちに開催されまし
た。全国で最高齢の参加者は
高知の会員・植野克彦さん
(86)で、記念の楯を、また、



3回参加者の同・植野さんと会員の田村信雄さんが同じく楯を大連市中日友好協会よりいただきました。

オプション旅行の内モンゴル自治区への訪問は、高知県参加者10名中6名が参加しました。参加者の会員・宮本博行さんと、一般参加の田村二郎さんの紀行文が寄せられましたのでご紹介します。

なお、この行事は来年度も同時期、同程度の費用（一般の海外旅行の6割程度の費用）で実施される予定ですので、希望の方は本年11月中までに事務局へ連絡下さい。一般参加も可能です。

今回の大連アカシアウォーキング行事の写真や音楽入りの動画がNPO高知県日中友好協会のホームページで見られますので、是非ご覧ください！

第4回大連アカシアウォークに参加して

会員 宮本博行

NPO 高知県日中友好協会の呼びかけで5月24日から29日の6日間、大連市中日友好協会主催の「第4回大連アカシアウォーク」に参加しました。

参加者は全国から約300人、四国地区は38人、高知からは会員5人、一般参加5人の計10人、内幡多からは4人で参加しました。



旅につきもののトラブルは今回も色々ありました。早速関空では昼食の後、レストランから出たときに他人のバッグを持って出て、搭乗手続きの際に呼び出しをかけられました。

大連には約2時間半で順調に到着。その後、中国特有の長い長いセレモニーに一同うんざりでした。街はロシアが造った街の雰囲気があり、私が今までに行った中で一番綺麗な街です。

2日目は観光で市内を散策とショッピングで明日のウォークに備え鋭気を養ってビールや中国酒を補給しました。

3日目はいよいよ今回の主な目的のウォーキングです。場所は金石灘という有名な観光地だそうで、海岸の奇岩と樹木（アカシアを含む）がとても綺麗な所です。ホテルから20分位歩いた所に大連駅があり、そこから臨時列車で50分位行き、そこから貸し切りバスで少し行けば金石灘につきました。

ウォーキングのイメージはほぼ平坦な道を歩くというものですが、ここは海岸線の階段を上り下りするもので、登山に近いウォーキングでした。こんな道を約1時間半歩き、足はパンパンになりました。普段の運動不足を大いに反省しました。

ここで大連だけで帰国する組と別れ、夜行列車に乗って内モンゴルへ。私は中国での夜行列車は2度目ですが、相変わらず狭い（私が太っている）ベッドで一夜を明かすことになりました。早朝5時前に添乗員が慌てて我々を起こしにきました。下車時間を1時間間違えたようで、ぎりぎり下車しました。

昨夜は大雨が降ったようで、おかげで40度以上あった気温が肌寒いくらいになっていました。朝食後早速砂漠体験に行きました。

途中は防砂林があり、なんと少しですが地下水を利用して水田もありました。常に強い北西風が吹いていて、乾燥すると細かい粒の砂が飛んできます。口の中が砂でじゃりじゃりします。

砂漠体験では有料でバギー車を運転しました。スピードを出しすぎて砂漠の頂上から転落して危うく大けがをるところでした。草原体験ではパオを訪れ馬頭琴の音を聞き、乗馬体験やモンゴル族の弓矢体験もありました。

皆さんが初体験を楽しんで内モンゴルから北京経由で帰国しました。毎夜の酒宴、ハプニ



ング、初体験などをそれぞれ楽しんだ6日間でした。来年も機会があれば行きたいと思う旅でした。

第4回2019大連市中日十都市アカシアウォーキング大会に参加

一般参加者 高知市 田村二郎

私は、会員の田村信雄さんにアカシアの花を見に行かないかと誘われ軽い気持ちで参加申込みをしたものの、初めての国外旅行でもあり、飲み水、食べ物の事について、やや心配をしていましたが、飲み水はバスの中やホテルで各々支給があり、食材についても日頃高知で食している食べ物とあまり異なる事がなく、全ての食材が美味しく食べられて心配事は何もありませんでした。この中国旅行で私が一番楽しみにしていたのは、列車に乗ること（特に一等寝台列車）。アカシアの花咲く回廊でのウォーキング。大連市児童芸術団ショーでしたが、全て期待以上の満足感のある5泊6日の旅でした。以下、簡単に日を追って紀行文を書かせていただきます。



この中国旅行で私が一番楽しみにしていたのは、列車に乗ること（特に一等寝台列車）。アカシアの花咲く回廊でのウォーキング。大連市児童芸術団ショーでしたが、全て期待以上の満足感のある5泊6日の旅でした。以下、簡単に日を追って紀行文を書かせていただきます。

○1日目（5月24日—金）

早朝5時に案内された高知市はりまや橋付近の街を田村信雄さん運転の車に5人が（他の5人は関空で合流）同乗して関西空港に出発する。途中、吹田JCT付近で事故があり大渋滞に遭遇する。ノロノロ運転、停車運転の繰り返しの長い時間が経過する中、予定の時間になっても関空に到着しない為、姜光健さんより心配の電話がかかる。その直後から少しずつ車が流れ出し関空到着。関空15:20発フライトで大連空港に約2時間で到着する。（時差1時間早く）2日間宿泊する中山ホテルにバスで約40分にて移動し、ホテル38階でビッフェスタイル料理を味わう。

歓迎セレモニーの行われた劇場で {歓迎観劇会}（大連市児童芸術団）の素晴らしい踊りや劇、歌等が次から次へと沢山披露され、その素晴らしさに感謝と感動の余韻の残るなか、22時頃にホテルへ帰る。

○2日目 大連（5月25日—土）

朝食後、四国地区日中友好交流団と大連市中日友好協会との懇談会が行われ、山田健一理事より大連市中日友好協会 于建軍会長に土佐闘犬の一刀彫を贈呈しました。その後、午前中は自由時間で各々近くの土産売り場やデパート、街の雰囲気味わいながらの散策となる。午後は大連都市（人口約700万人）の観光を行う。大型バスで移動中、街の所々にペチュニア等の鉢を道路沿いに釣り上げた花が歓迎してくれる。軽四輪は1台も見かける事なく普通車、特にベンツ等の外国産高級車を多く見かける。王子韜さんから大連市の概要や車窓から見える高層ビル群の説明を聞きながら市街地を抜け瀬戸大橋に匹敵する湾岸道路（鉄道は併用していない）を通り、広大な港公園を観光散策する。海では大連市の中日友好協会メンバーが操るヨッ



ト2隻が私達を大歓迎し、洋上を何度もデモンストレーションしながら手を振って行き来してくれました。その後、大連市の歴史、発展を展示してある大きな施設「市立規畫展示センター」に入館し、大連市の概要を管内ガイド片耳用ヘッドフォンで詳しい説明を受けて大連市の概要の学習をする。その後、四国地区参加者のみは四国華僑華人連合会 張嘉樹会長の特別な計らいで夕食「別メニュー」となり、リゾート地にある高級レストランで中華料理の豪華夕食を頂き、中山ホテルに21時頃

帰着する。

○3日目(5月26日…日)

ホテルから大連駅に移動し快速専用電車(約50分)にて第4回(2019)中日十都市アカシアウォーキング大会開会式場の「金石灘国立地質公園広場」に向かう。歓迎開会式が行われ「アカシア花見、海景色ウォーキングコース(約1.8km)を歩く。結構海岸の高低差がありボリューム有るウォーキングとなったが、海岸の奇岩や遊歩道のアプローチは楽しみ多いウォーキングとなった。なかでも道沿いのアカシアの花(アカシア属は世界に約650種有ると言われているがここでは白いやさしい花が大半)は見事でした。「九州国際ホテル5階」で、18時:30分からの懇親会と送別会を行って頂いた。ここでも素敵な中華料理を廻りテーブルで味わう。宴途中にオプションである内モンゴルに向かうため夜行寝台列車(大連駅発21:06 甘旗卡駅午前5時:00分着)に乗車するため、四国地区参加者は大連駅に向かう。一等寝台列車は4人1部屋、左右2階の日本の寝台列車と同じような作りの列車。同室の方々や四万十市から参加の会員・宮本博行さん等と列車内で車内販売のビールを飲みながら歓談を行う。列車で夜中にトイレに起きた時大きな街を通過していた。高知に帰り世界地図をひもとくと、その街が人口約900万人の遼寧省の省都・瀋陽市であったのではないかとと思われる。

○4日目(5月27日…月)

内モンゴル甘旗卡駅からバスにて内モンゴルの観光地に向かう。モンゴル人の添乗員ガイド(男性)による説明を王さん通訳で聞きながら中国東北地区最大級(タミン・チャガン砂漠)観光地区まで向かう。聞けば内モンゴルに住むモンゴル族の就業確保のため中国政府により観光事業に携わる仕事は漢民族は一切出来ないことになっているとの事。



高い山が周りにはなく地平線が延々と続く砂漠の真っ只中「孤駝涙」映画撮影地で「砂漠オフロードジープ体験をする」。日本ではほとんど見られない砂地(砂を細かくすりつぶしたような土状の砂)をジープで砂丘を駆け抜けて散策のできる広大な砂丘の真ん中に到着。足元に気をつけながら散策する。三輪オートバイに乗った地元の女性達がオートバイに乗らないか

と誘いに来る。何人かが砂丘でのオートバイ乗車を楽しむ。昨日までの激しい雨で土状の砂は比較的安定しており歩きやすかったが、所々で砂が風で舞い上がっていた。これが日本まで飛来してきている黄砂の原因かとする。この地区は先日までの雨の前まで40度位の暑さだったとの事だが、この日は結構寒かった。目を遠くに向けると所々に植えられた防砂林や緑の小高い丘の中、風が強い所を利用して発電を起こすため送電線と風車が砂漠中を延々と続く。次に砂漠の中で広大な緑に覆われた中国国家AAAA級観光地（内モンゴル大青溝）へ移動。ウォーキングで大青溝観光、低地原始森林の中、森林浴を小川と緑の中、アップダウンを楽しみながら中国の伝記を添乗員から聞く。専用車で「民族風情遊楽園」へ移動し、モンゴル族の風習及び生活習慣等を体験する。夕食は「モンゴル族料理体験」での羊の丸焼きが出された。右手薬指を地酒に浸けて上に天・下の

地に感謝し注がれた地酒を一気に飲む儀式を体験。内モンゴルの夕食ではモンゴル民族歌謡を楽しむ。モンゴル族キャンプファイヤーまでの日没時間までの間、レストランで参加者達の交流会、かくし芸が披露されたり、カラオケを楽しんだ後、キャンプファイヤー会場に移動する。民族舞踊や歌を楽しんでいる途中であったが、ホテルまで遠いため中座して宿泊先・博王大酒店（内モンゴル通遼市のホテル）に向かう。



○5日目・6日目（5月28日・29日…火・水）

ホテルからバスで「国家AAAA級ホルチン・珠日河草原」へ出発し草原観光とモンゴル馬の乗馬体験を楽しむ。乗馬体験は1,600m競馬場の外周に作られた2,000m近い観光用の砂地を先導の馬に引率されながら一周する。乗馬を恐らない人には草原に出て走ってくれるサービスも味わう事が出来、怖さ半分の中で堪能する。乗馬の後、サプライズで競馬の本レースをデモンストレーションでやって見せてくれました。また、遊牧民族住居ゲル（パオ）を訪問しモンゴル族の生活習慣、馬頭琴や歌等を観賞。

ここで添乗員ガイドからバスの中で説明を受けました内モンゴルの特性に触れてみたいと思います。産業は、遊牧と乳製品作りが盛んであり、砂漠や平原の風力発電が盛んに行われている。発電機1基で約100戸の家庭の電気が賄える。農産物として、トウモロコシ（広大な土地に栽培されていた）があり、味の素の原料として日本にも輸出されている。“そば”の実 は血糖値が上がらないことで定評があり沢山作っている。無尽蔵にある砂漠の砂にはケイ素が多く含まれており、それを利用してのガラス工場も多く有る。その他、口紅の原料として赤いピーマンも輸出。製鉄業も多く、レアメタル、天然ガスの資源も豊富。内モンゴルは東西約2,400kmあり、中国で一番長い。また、カシミヤは中国の4分の3、世界の2分の1を占めて輸出されている。農家の年間収入は4万円（日本円で約70万円）であり、公務員の収入は約4.8万円だが物価は安く比較的生活が安定しているとの事。例えば牛肉100gは6元（日本円で約100

円) スイカ 1 個は 20 元 (日本円で約 320 円) と食料品は特に入手しやすい。帰国のため内モンゴル・通遼市 (人口約 300 万人) へ移動してレストランで最後の中華料理を食事する。ホテルで休憩をとり深夜の飛行機で通遼から北京に飛ぶ。北京元航国際酒店 (ホテル) 朝 6 時発バスで北京空港へ行く。初めて見る巨大な国際空港と凄い人ごみにビックリしながら 8 時 40 分発中国国際航空にて北京より関空へ 12 時 40 分着。ここで、四国参加者の方々とのお別れ会が行われ、それぞれ別れを惜しみながら散会となる。香川県から参加されていた平木さん、築瀬さんはじめ沢山の方々に親切にしてください最高の旅となりました。四国華僑華人連合会の姜光健さん、毛勇さん、王子韜さんには感謝、感謝です。

○追記

5 泊 6 日間ずっと同室で宿泊し大変お世話になりました会員の山田健一さんから中国についてのレクチャーを受けるなかで、こんなにも隣国中国の事を知らなかった自分を恥ずかしく思うと同時に日中間には苦い歴史的背景があるにもかかわらず、極めて友好的親日態度で日本人に対して接してくれる中国の方々に対して頭の下がる旅行でもありました。

国際的に近年、発展目覚ましい中国の姿をもっともっと学習しなければという思いで「NPO 高知県日本中国友好協会」にこの旅行中の寝台列車の中で、入会届と会費を田村信雄さんに納めさせていただきました。日中友好協会の皆様ご指導よろしくお願ひします。

早稲田大学・中国留学生御一行19名来高

中国・頂新夢プランにより早稲田大学に派遣された、北京大学、精華大学、浙江大学、上海交通大学、復旦大学の五大学の中国留学生 15 名と早稲田大学・平川幸子 (高知出身) 留学センター准教授および職員御一行 19 名が、宿毛市 (企画課) 主催の第 5 回フィールドトリップで、去る 5 月 29 日 (水) より 6 月 1 日 (土) の期間、宿毛市を訪問しました。

宿毛市役所での歓迎式典や、宿毛・秋沢ホテルでの歓迎交流会、農業、漁業、老人ホームの見学、高知工科大、宿毛・



橋上小学校、高知大学などの教育現場、宿毛歴史館などを訪問し、交流を深めました。NPO 高知県日中の会員ら 5 名で龍馬空港でお見送りし、留学生の皆さんに新婚旅行や家族旅行で高知へ是非またおいで下さいと伝えました。全員元気で帰京しました。

四国4県中日大学生交流運動会について

本年は高知開催となり、来る 10 月 19 日 (土) に高知市大原町の高知市総合体育館で運動会を行い、同日に高知会館で四国 4 県中日大学生交流懇親会も行われることに決定されました。

主催は（一社）四国華僑華人連合会、共催は中国駐大阪総領事館、各県中国人留学生学友会、NPO 高知県日中友好協会等を予定しております。第1回の打合せ会を7月20日（土）各県の留学生を中心に県協会の事務所で開催します。会員の皆様には、今後の準備への御協力をお願いします。高知開催を成功させましょう！

結城正秋氏死去

会員の結城正秋氏が去る4月に逝去されました。1989年6月に入会されて以来、長きにわたり日中友好運動に熱心に御協力頂きました。会員一同心より感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

会長 岡林俊司

(公社)日中友好協会第11回定時総会開催

2018年6月14日（木）13:30～から東京文京区の日中友好会館で第11回日中友好協会定時総会が開催され岡林会長が理事の立場で出席しました。（当協会は委任状提出）

総会には執行部、各県日中友好協会から59名（委任状17含む）が出席し、2018年度の事業報告・決算・監査報告を原案通り承認しました。主な活動報告は次のとおり。

- 第16回日中友好交流会議の開催（2018年11月18・19日・岡山市、日本側約180人・中国側約120人参加）、（公社）日中友好協会代表団訪中（2019年4月25日～28日、北京15人）
- 日中友好大学生訪中団派遣①（2018年6月1～7日北京・敦煌・西安108人、②（2018年8月27日～9月2日、北京・杭州・上海109人（③（2019年3月21日～27日、北京・深圳・広州106人）、「日本と中国」編集部訪中（2019年8月6日～9日北京6人）、在日華僑華人との日中友好ボーリング大会（2018年7月28日・東京130人）
- 第36回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会（2019年1月13日・東京、全国から予選を勝ち抜いた22名（高校性・大学生・一般の3部門）の中で熊本県の大学生の瀬野智博さんが最優秀賞。各部門の1位は3月13日～17日まで訪中）
- 「チャイナフェスティバル2018」への参加（2018年9月8・9日、代々木公園15万人）、公費留学生派遣事業、丹羽宇一郎奨学金
- 協会事務所の移転（2019年4月18日から台東区駒形1-5-6金井ビル）
- ・47都道府県の組織状況--加盟42都道府県、休会1県（徳島）、未入会2県（広島、宮崎）、未組織2県（島根、長崎）、
- ・青年委員会設置--14県（北海道、宮城、茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、長野、福井、京都、大阪、和歌山、岡山）
- ・女性委員会設置--19県（北海道、宮城、秋田、山形、茨城、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、京都、大阪、兵庫、和歌山、岡山、熊本、大分）

2019年度の活動計画については2020年の「協会設立70周年」事業に向けての準備、70

年史編纂（各県 2 ページ記事）、中華人民共和国建国 70 周年記念展の開催、青年・女性の交流事業、東西実務者会議の開催（西日本--9 月 1 日（日）・2 日（月）神戸市）、友好都市間の交流促進、中国語普及事業、丹羽宇一郎奨学金、各県協会の組織化（5 県対策）と活性化、会報「日本と中国」の拡大、出版事業（友好手帳 2020・総会月刊誌「人民中国」・平山郁夫カレンダーの販売）、訪中団の派遣（本部、大学生、女性委員会など）、在日華僑華人との文化・スポーツ交流の開催、満蒙開拓記念館「セミナー棟」増設への協力などを決定しました。

総会終了後には 5 月に離任した程永華中日大使の後任の孔玄祐駐日大使が挨拶に来られ、“2014 年からの関係改善が花開いた、日本と中国が健康体になるようお互いに目標にしよう”と述べ 4 政治文書の履行、民間交流の重要性を強調しました。とくに現在の中国とアメリカの関係については“日中の民間交流”のようなものがなかったから、と述べていました。孔大使は 30 年前に大阪領事館に勤務し今回で 3 回目の赴任となる知日家であり今後の活躍が期待されています。

新入会員の紹介

次の方々が入会されましたのでお知らせします。

- *大石宗さん・・・入会日 2019 年 5 月 14 日、高知市出身
高知県議会議員（所属会派…一燈立志の会・代表）
- *田村二郎さん・・・5 月 26 日（中国・大連にて入会）、高知市
元・高知市職員
- *神岡俊輔さん・・・5 月 31 日、高知市
高知市議会議員（所属会派…市民クラブ）
元・高知市消防局職員
- *西岡史雄さん・・・6 月 7 日、高知市・自営業
- *松岡由紀彦さん・・・6 月 11 日、高知市
松岡塾（補習塾）・塾長

本年 2 月に入会されました伴武澄さん、今井みどりさん、中村博孝さんを含め、現在 8 名の方が入会されています。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。

会員募集中

会費：1 ヶ月 1,000 円

日中友好新聞中央版（毎月）と高知県版（不定期）代を含む。

事務所までご連絡を！

ホームページ URL・・・<http://nichu-kochi.net/>

事務所開設時間・・・平日の午前 10 時より午後 1 時まで